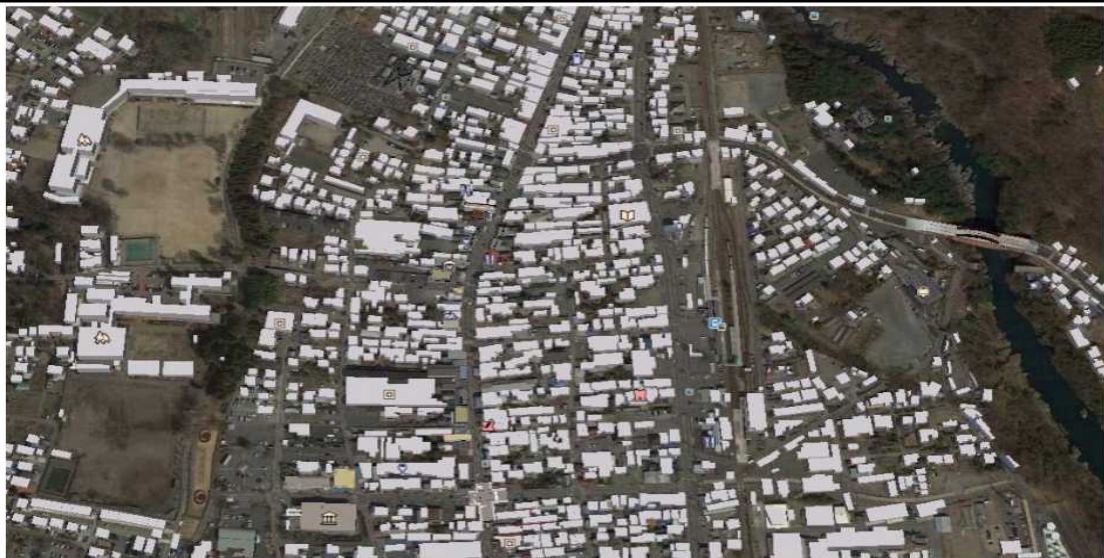


近隣保育園、中学校、 高等学校、地域との合同避難訓練

平成27年12月4日(金)
地域と学校のパートナーシップ推進フォーラム
大泉文化むら
みどり市立大間々中学校 教 頭 糸井 隆志

はじめに 学校・地域の現状





二葉保育園

- ・二葉保育園は、間々根（河岸段丘）の下に位置している。
- ・保育実習として、春と秋に3年生が訪問している。
- ・職場体験で、2年生がお世話になっている。
- ・保育園児は、春の花の時期に散歩に訪れたり、運動会を見学したりしている。
- ・本校生徒との情報交換をしている。

大間々高等学校

- ・本校と大間々高等学校は、道路を挟んで、建っている。
- ・本校の校長は、大間々高等学校の学校評議委員を努めている。
- ・それぞれの授業公開日には、教員同士が参加している。
- ・部活動においても、合同練習等の交流がある。

第9区（本校の所属する行政区）

- ・区長さんは、大間々高等学校の学校評議委員。
- ・平成20年度より、第9区の文化祭の発表会で本校吹奏楽部が演奏している。大間々高等学校の吹奏楽部も参加している。
- ・入学式や卒業式、運動会、合唱コンクール等を学校区全域に公開している。



大間々町	校	神梅68				
大間々9	福岡中央小学校	72-1264	みどり市大間々町浅原1500-2	○	(土砂災害に注意)	地図
大間々10	(旧) 福岡西小学校		みどり市大間々町塩原363	○		地図
大間々11	大間々中学校	73-1049	みどり市大間々町桐原217	○		地図
大間々12	大間々東中学校	73-0516	みどり市大間々町大間々1829-1	○		地図
大間々13	赤城保育園	72-2061	みどり市大間々町桐原775-1	○		地図
大間々14	二葉保育園	72-1182	みどり市大間々町大間々2261	○		地図
大間々15	大間々保育園	72-1448	みどり市大間々町大間々792-2	○		地図
大間々16	東保育園	73-4188	みどり市大間々町大間々471-1	○		地図
大間々17	大間々南幼稚園	72-0067	みどり市大間々町大	○		地図

きっかけは、避難訓練の見直し

実際に、地震などの自然災害等が起きたときに、
今までの避難の方法で本当に大丈夫だろう
か？

大間々中学校の場合

- 今までの避難訓練もよくやっているように思うが、緊張感や避難の意識が低いのではないだろうか。
- 本校は、みどり市指定の避難場所になっているが、実際に災害が発生したときの受け入れ体制を経験する必要があるのではないか。



充実した避難訓練を実施したい

大間々高等学校の場合

- 今までの避難訓練は、実施している。
- 地震などの自然災害の場合、今までの避難経路では、高等学校の校庭に避難するのに、狭い通路を通ったり、校舎を横切る際の落下物などがあったりして、危険ではないか。



隣接した大間々中学校の校庭に避難した方がより安全ではないか

二葉保育園の場合

- 園の避難訓練は実施している。
- みどり市指定の避難場所になっている。
- 渡良瀬川上流の草木ダムが決壊した場合を考えると、より高台に避難する方が安全ではないか。



坂の上にある大間々中学校の校庭に避難した方がより安全ではないか

みどり市大間々赤十字奉仕団の場合

- 訓練を通して、奉仕団の災害時における対応能力と防災意識の向上を図ることを主な目的とする。また、地域に対して奉仕団活動をはじめとする赤十字活動を周知することを通して、防災意識を向上させることをあわせて図るものとする。



今年度は、大間々中学校で実施したい。

行政区9区の場合

- 行政区としての避難訓練を実施した。
- 地域が一体となったものはいできないか。



なんとかできないだろうか？

はじまりは、大間々高等学校

- ・本校(大間々中学校)の学校長は、大間々高等学校の学校評議員に任命されており、日頃から、交流が多い。



「大間々中学校と一緒に避難訓練はできないだろうか」と打診があった。本校も、生徒達が真剣に取り組めるような良い方法がないかを模索していたので、両校の思惑が一致し、まずは、二校合同の避難訓練の話がまとまった。

続いて、みどり市大間々赤十字奉仕団から、今年度、大間々中学校での炊き出し訓練を実施したいと連絡が入る。

二葉保育園もこの話を聞いて、ぜひ参加したいとの連絡をしてきた。

大間々高等学校の学校評議委員である行政区9区長より、協力したいとの要請を受けて、避難時の安全確保のため、9区青パト隊に交通整理を依頼した。

課題

- ・各校・園や行政区、団体の思いや願いをどのように融合するか。
- ・4団体共通の避難計画(スケジュール)をどうするのか

みどり市大間々赤十字奉仕団

みどり市大間々赤十字奉仕団は、炊き出し訓練のため、時間が決まっている。例年、各校で実施しており、日赤県支部の講話や市長の話などをしてきた。このスケジュールを変えることは難しい。

大間々高等学校

11月25日(火)実施の合同避難訓練実施のため、大間々高等学校と6月より、打ち合わせを数回にわたり実施。日程、お互いの実施計画を調整し始める。

大間々高等学校で、できれば生徒の安全確認と生徒対象の学校長の話をしたい。

二葉保育園

年長組の園児が避難訓練に参加するが、坂を上るので時間がかかる。

4団体共通のタイムスケジュールと各校ごとの避難計画

4団体合同避難訓練共通タイムスケジュール

大間々中学校・大間々高等学校・二葉保育園合同避難訓練並びに赤十字奉仕団・婦人会による炊き出し訓練日程

時間	赤十字奉仕団 婦人会	大間々中学校	大間々高等学校	二葉保育園
9:00	関係者集合 会場設営 調理開始	普通授業	普通授業	
11:55		授業開始		
11:55	地震発生			
		避難開始	避難開始	避難開始
12:20	避難終了			
12:20	指導講評 校長講話 日赤群馬支部講話			
12:40	移動			
12:45	炊き出し食による昼食			
13:20	終了・片付け	終了・解散		

タイムス 2014年(平成26年)11月26日 水曜日 (2)

ここが避難所になったら…
地域あげ合同防災訓練

高校、保育園、住民が一堂に

大間々中

大間々赤十字奉仕団による炊き出しの
カレーをもちろそう生徒ら(大間々中)

大間々中、大間々高、二葉保育園、赤十字奉仕団、婦人会が一堂に集まり、合同防災訓練が行われた。大間々中では、生徒らも参加し、大間々高では、校長講話が行われた。二葉保育園では、年長組の園児も参加した。赤十字奉仕団、婦人会からは、災害時の対応について講話が行われた。最後は、大間々赤十字奉仕団による炊き出しが行われ、カレーが振替された。

桐生タイムスに記事が掲載された。

災害では、自分の身は自分で守ることが大事。その上で、行政などによる公助と、地域で助け合う共助が必要。

日赤県支部 林瑞穂主事

長野北部で多くの家が倒壊したのに死者が出なかったのは、日頃から共助の意識があったからだと聞く。私たちも長野の例を見習い、地域の協力の大切さを再認識したい。

みどり市大間々赤十字奉仕団
須藤日米代委員長

平成26年11月26日(水)
桐生タイムス紙2面より

生徒の作文より

もし大地震が起きたときのための大切な訓練になりました。私たちが安全に生活できるのは、地域の人たちのおかげだなと感じました。

今回の防災訓練には、今までの何倍もの人が集まって、とても驚きました。実際に災害が起こったときには、もっと大変になるのだと思いますが、本番により近い形で訓練ができて良かったです。

昨日の避難訓練では、炊き出しの訓練などとても本格的にやりました。いつ、大きな災害が起こるか分からないので訓練をきちんと行うことは大切だと思いました。また、大間々高校、二葉保育園のみなさん、市長、たくさんの地域の方々などと一緒にやったので、とても重要な訓練となりました。

大規模な避難訓練をしました。本当に避難をしているかのようにでした。この前も、長野県で大きな地震があったばかりなので、こういう訓練を日頃からしていると、いざというとき、さっと行動できるのだなと思いました。

私にとって、今回の避難訓練はとてもためになりました。高校生や保育園生も大中に避難しましたが、大勢の人数が避難するには本当に時間がかかると感じました。きっと、災害の時はもっと時間がかかっていきます。だから、一人一人が自分の身を守り、しっかりと動くことが大切だと感じました。とても多くの方の協力があったこの避難訓練を災害が起きてしまった時に絶対に役立てたいです。

新しい連携の動き

- 今まで通り、各校・園、地区との交流を続けていく予定である。
- その中で、互いに必要性が生まれれば、随時取り組んでいきたい。

成 果(連携の効果やメリット)

- 大がかりな合同避難訓練により、生徒に緊張感が見られ、真剣な取り組みができた。
- いざというときの準備・心構えが、生徒・職員に生まれた。
- 生徒の視点が広がり、地域の方々への感謝の気持ちが生まれた。
- 大間々高等学校、二葉保育園、地域との関係が深まった。

保育実習においては、生徒が園児によりよいおもちゃ作りができるように、春に1度訪問することを教師とともに考え、実行して、秋の保育実習に生かせるようにした。園児も一度会っているので、秋の保育実習をととても楽しみにしていた。

- 地域の方々の3校への理解が深まる。
- 学校評価において、「学校は、毎年地震や火災を想定した避難訓練や、不審者対策の防犯訓練を実施し、子どもの安全対策に努めていますか。」の項目で「A:よく努めている。B:努めている。」の合計が、第1回:90%から第2回:95%になった。(A評価だけに着目すると 第1回:36%から第2回:47% 今年度、第1回:65%になっている。)
- 行政区とのつながりが深まり、自由に意見交換ができるようになる。

課 題

- 実際に地震等の災害が起きた場合の全体を指揮する組織作りをどうするのか
- 人数が多いときの対応を共通理解して、各自が判断できるようにすること。
- 各職員が、施設の利用について、十分に理解すること。
- 毎年実施するのは、むずかしい。何年かに一度の実施を各校で確認できるとよいのではないか。
- 各校・園や行政区、団体の思いや願いをどのように融合するか。